



富士特だより

【めざす学校像】

児童生徒一人一人の自立を育てる 笑顔

あふれる学校

富士見市立富士見特別支援学校

令和4年2月3日(木) 第11号

受援力を育みましょう

受援力 あまり聞きなれない言葉ですが、これは、「助けて！」と言える力であり、支援を受ける力を意味する抱え込まない力です。本校で子どもたちに身につけさせたい力の中には、この「助けを求めることができる力」があります。保護者の皆様はこの力の大切さをご存じでしょうか。



一般的に「人に迷惑をかけない子に育てたい」と思う保護者の方が多いことと思いますが、本校では、子育てや療育において助けはなるべく求めずに、自分で何とかしなければならぬと強い思いでいらっしゃる方が多いように感じます。そこで、この「助けを求めることができる力」について紹介したいと思います。

一般的に真面目で頑張り屋の方ほど自分を追い込んでしまいがちで、忙しい日常に流され、周囲に助けを求めたり、周囲に弱音を吐いたり、愚痴をこぼすこともできないことが多いようです。中には、助けを求めるとか趣味など自分のために使う時間を作ることや息抜きをする時間を持つことに、親として罪悪感を覚えてしまうこともあるようです。

「助けて！」と言える力は、大切な力であり、人に頼ったり、助けを求めることは恥ずかしいことではなく、みんなが健全に生きていくために必要な力です。子育ては、お子さんが小さい時から、家庭、学校、地域がそれぞれ連携して行うことが理想的です。当事者だけでなく地域社会が諸課題を共有することが肝要です。どんなに難解な課題であっても、一つ一つ細切りに切り分け、分担することで解決することができます。こうしたことができる社会こそ、今、私たちが実現を目指している共生社会です。

まずは、自分自身と子ども（本人と兄弟）、家族が将来を見越して大きな不安を抱えていないかどうかを振り返る時間を作ることから始めてください。そうすることで、悩みや不安をどのように解消すべきかある程度整理し、誰にどの程度の助けを求める必要があるかという見通しを確認することができます。

日々の生活の中で、上手くいっていることに対しての「どうしてうまくいったのか（できているのか）」という視点で考え、この状態を継続するにはどうしたらいいか、「なぜうまくいったのか」を視点に見方や捉え方をポジティブにすることで積極的に周囲に働きかけや関係性を求めたり伝えられるようになることが大切です。

困ったときや苦しいときは、遠慮せずに自分から「助けてほしい！」と声を上げる。困ったときはお互い様です。助けてもらうことでほっとしたり、嬉しくなったり、心が温かくなったりします。不安が解消することで笑顔が戻り、助けていただいた方との関係性も築かれます。また、こうした過程を子どもたちが見ながら育つことで、子どもたちにも「受援力」が自然に備わることもあります。



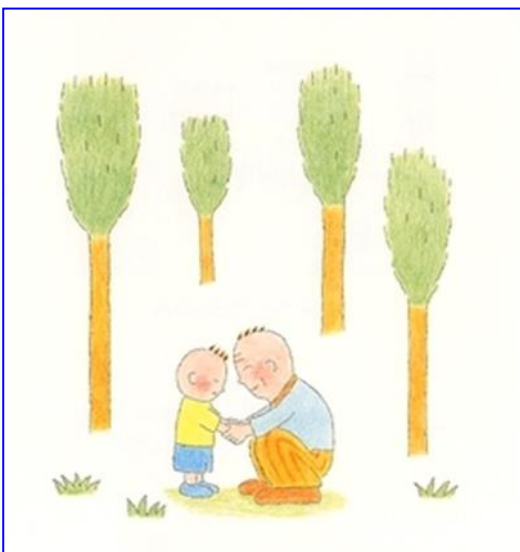
「大丈夫」は魔法の言葉

『だいじょうぶ だいじょうぶ』は、いとうひろしさん作の大人にも人気の絵本です。幼い「ぼく」が困ったことや怖いことに出会い不安になるたびにおじいちゃんがぼくのをにぎり、つぶやく魔法のことば...

「ぼく」は少しずつ強くなり病床に伏してしまったおじいちゃんに同じ言葉を繰り返す。「だいじょうぶ だいじょうぶ」...。ちなみに私は、この言葉が大好きで、自分を鼓舞するときの掛け声にしています。

同じ言葉で、2シーズン連続最下位から大逆転で日本一を勝ち取ったのは、ヤクルトスワローズです。優勝の原動力となったのは、ずばり「絶対大丈夫！」という監督が吐き続けた言葉であることはご存じの方も多いことと思います。この言葉の背景は、選手一人一人が自分のことをしっかりと理解し、チームや仲間のことを理解して周りを信じ、一枚岩になれば絶対に崩れないというところにあります。

「何かあったら僕が出ていく、何かあったら必ず相談して、自分で抱え込まないことをルールにする、みんなに自信を持ってほしい、絶対大丈夫、絶対いける、絶対大丈夫だから、どんなことがあっても僕らは崩れない、グラウンドで堂々と勝負してください！」と選手やスタッフに言い続けたそうです。組織力の向上を図るある種の言霊（ことだま）のように思います。



スポーツの世界に限らず、仕事においても、失敗が続いて自信が失われがちな時や、行き詰まりを感じた時、結果や実績を出せずに低迷している時、ケガや体調不良が続く、不安な状態なのに休むことができない時、それでもやり続けなければならぬ時があります。そんな時、信頼できる先輩や尊敬する人から、「大丈夫！あなたならできる！」と言葉を掛けられたらどうでしょうか。

それだけで、前向きな気持ちになり、自分にもできそう、なんとかやってみよう、よし頑張るぞ、あとは任せた（仲間）、という気持ちになることでしょう。「大丈夫！」が口癖だと少々有難味が薄れてしましますが、ここぞという時、効果絶大です。そっと肩に手をのせ、ハイタッチ、グータッチをしながら、「だいじょうぶ！だいじょうぶ！」は、学校やご家庭でも大切にしてほしい言葉です。

カレンダーの巻き癖が馴染んだと思ったところで、気が付けば卒業式まであと1カ月余り、今年度もあと2カ月を残すところとなりました。未知のオミクロンの脅威が続きますが、子どもたちとご家族、教職員を守ることを最優先にし、子どもたちの学びを止めないよう引き続き一層の感染対策を講じてまいります。

今後も、保護者や地域の皆様の変わらぬご支援とご理解、ご協力を宜しくお願いいたします。

校長 阿部 和彦

1月の取り組み

小学部

小学部5年生では、初詣に行ったり、たこあげ、福笑い、風船羽根つきなどのお正月あそびを楽しんだりしました。福笑いでは、目かくしをして挑戦することもできました。風船羽根つきでは、友達同士でラリーを楽しむこともできました。



高等部

高等部の国語・数学Bグループでは、今年度パソコンを使った活動を多く取り入れています。1、2学期には、タイピング練習やパワーポイントでのプレゼンテーションを行いました。今は、数学の資料の整理の授業の中で、先生方にアンケートを取り、「エクセル」で、数値を入力したり、グラフを作成したりしています。今後、先生方に結果を報告する予定になっています。



避難訓練

14日（金）に避難訓練が行われました。今回は1・2学期よりステップアップをして、児童生徒には予告なしで行いました。地震・そして火災が発生するという想定でした。放送で緊急地震速報が流れ、本当に地震が来た時に近い緊張感の中、先生の指示に従って、素晴らしい態度で訓練に臨むことができました。



中学部

中学部重複1組では、2人の生徒でクラスの仕事を分担しているので、それぞれ担当の係が3つもあります。3学期始めの学級活動で、6つの係からやりたいものをそれぞれ選び、日々責任をもって係活動に取り組んでいます。



情報あれこれ

- ・「埼玉県児童生徒図工美術展入間地区展」は中止になりましたが、金賞、銀賞作品を個人面談週間に事務室前に展示いたします。お立ち寄りください。
- ・中央図書館で行われる「富士見市内特別支援学級・学校児童生徒合同作品展」も中止となりました。